

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア元八事(ユニットA)		
所在地	愛知県名古屋市長元八事3-292		
自己評価作成日	平成31年 1月26日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2371601234-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長元八事104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人なので、健康管理は万全で、理念である「心と穏やかな暮らし」を目指し、感謝と思いやりの心を忘れず安心を提供しています。また、他部署と互いに協力し合い視野を広げて安心安全な生活ができる様、情報の共有をして身体機能維持向上に努め、利用者様の満足感につながるケアを心がけております。また、毎日が元気で笑いの絶えない施設を目指し、レクリエーション等にも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交代して1年、多くの職員の入れ替えがあり、訪問調査日のホームの雰囲気を変えたいが、離職職員にはそれぞれの事情があり、心配のいらぬ状態であった。管理者は理念である「昔と変わらず和みのある暮らし」を実現するため、人材育成に取り組んでいる。職員の提案には「まずやってみて」と、提案を積極的に取り入れ、職員の自主性を育てている。
 利用者を支える環境作りは、家族・ホーム・法人も関わっており、職員から「利用者の笑顔が増えていく」との声があった。家族から「浴槽への入浴が難しいが冬が心配」、「記録を詳細にして欲しい」等の意見があり、家族の意見・要望に積極的に取り組み、改善している。家族から「家庭的で温かみのある雰囲気」、「更なる改善を期待」等の言葉が聞かれ、一つひとつに着実に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針は「昔と変わらず和みのある暮らし」をしていただけるよう提供している。理念も周知されるようにミーティングを通して確認し実践につなげている。	理念を基に職員が毎年スローガン決め、今年度は「色とりどりの1年でありますように」を掲げ、利用者のより良い暮らしに繋がるように取り組んでいる。理念を具体化した個人目標の設定や、振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。地域の行事に参加、施設行事への参加、近隣方々やボランティアに支援していただくなど交流をしている。	町内会に加入し、組長も経験している。地域行事のゴキブリ団子作り、盆踊り等に積極的に参加している。地域の美容師が生活保護の利用者の髪を整えたり、大家さんの家のみかん狩りに出掛けたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを通じ近隣の方々に理解をいただき外出や散歩で挨拶を交わすなど触れ合うことで理解や支援方法を活かせるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。いきいき支援センターの方の参加協力を頂き運営状況、施設の取組等報告している。家族の意見も盛り込みサービス向上につなげている。	市、区、地域包括支援センター、組長、法人事務長、家族が参加し、利用者の普段の生活を見ながらリビングで開催している。積極的な意見の出る会議であり、出された意見は実践に反映するように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所など尋ねた折には、相談助言をいただく機会をもつように心がけている。運営者が積極的に連絡をするなど往来する機会をつくっている。	運営推進会議には市や地域包括支援センター職員の出席があり、ホームの状況は随時市の窓口に伝わっている。生活保護受給者の利用があり、区の保護係とも相談・助言を受ける等、連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、勉強会、マニュアルをもとに職員と意見をもちより、しないケアで取り組んでいる。ご家族とも相談の上、同意書を交わし施行。また3ヶ月ごと評価、検討をおこなっている。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解している。玄関は安全の為の施錠があるが、ユニット間や庭に出る等、自由な出入りを確保している。言葉使いについても、職員同士が声を掛け合って注意し、意識の向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに職員間意見交換や勉強会を開催。見過ごすことのないように声を掛け合い意識付をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の勉強会や民間の勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は施設長が統括的におこない施設パンフレット及び、重要事項説明書に添って内容を読みあげ、疑問点等に答えたりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見は随時施設長に報告、記録しミーティングを行ったり、運営推進会議を活用し運営に反映させている。	家族会や面会時には、家族からの意見・要望・質問を管理者・主任が聞き、すぐに対応している。「往診日、ケアマネジャーの来訪日を教えてほしい」との意見に、玄関掲示をする等して積極的に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議を2ヶ月に1回開催し各施設報告をし共有の問題点や課題にとりくんでいる。月に1回ミーティングを行い個人的にも意見交換をし反映させている。常に意見を聞き反映できるよう努力している。	管理者は、何時でも職員の意見を積極的に聴く姿勢があり、その都度話し合っている。管理者は「職員の家庭を守ることも大切」と常に伝えており、急な休みにも協力し合う等、職員間のチームワークも良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容など職場環境、条件の整備に関して配慮が希薄。時間外労働もあるが給与へ反映させている。また代表者は職員の状況を把握しようとして努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年2回の研修、定期的な技術研修の実施。施設内での新人教育に対する取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内ではあるが、それぞれの施設にて交流はしている。同業者との交流は施設長が主となりネットワークづくりに賛同している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望には耳をかたむけたり、本人の行動から探したりと安心した生活が保てるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常的に耳を傾けたり、こちらから問いかけたり話しやすい環境づくりに努めている。ケアプランの中に要望をとりいれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況にあわせ、必要に応じて職員間で話し合い支援の見直しや対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時と場所を共有することで、できる限り本人の意思を尊重しつつ援助をしている。一緒にできることへの喜びを共有し共に学びあいながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコンタクトをはかり会話をもって情報の共有をともに考え解決したり伝達できるよう支援し本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる範囲での支援はしている。馴染みの場、人との関係継続は難しいが、思い出話、好きだった場所などを傾聴することを心掛け支援している。	友人、教会の知人が訪ねて来ている。家族の協力があり、墓参りや法事で自宅に帰る利用者もいる。裁縫が得意な利用者が雑巾を縫う等、趣味・習慣にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士孤立しないよう職員は配慮に努めている。レクや会話を一緒に楽しんでいただけよう各テーブルに職員を配置したりトラブル回避している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙のやりとりなど一部であるがつきあいの継続をしている。いつなんどきにおいても相談援助できるようにオープンにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き取り家族と相談しながら尊重するようにつとめているが、困難な場合は本人本位に検討している。	日々のケアの中で寄り添い、小さな表情や動作を見逃さないように支援している。スキンシップをしながら利用者が心を開くようにして、思いを汲み取るように努め、把握した情報は「連絡ノート」に記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく馴染みの生活環境作りができるように、使い慣れた家具なども持ち込み対応している。アセスメントなどからも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な会話のなかで聞き取りや行動などから理解に努め、医療従事者から情報ももらっている。日常のケアでも職員間で情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを開催し現状に即した介護計画書を作成している。本人・家族のニーズをもとに短期、長期目標をたて状況に応じ随時見直しをしている。	面会時に聞き取った意見・要望を把握し、計画作成担当者が意向を反映した計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、サービス担当者会議を行い確認を行っている。	その人らしさ(個別ケア)のでた具体的な介護計画の作成が望まれる。記録による達成評価ができる、記載方法を検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を利用しながら実施しているが情報が伝わりきれていないこともある為、毎朝、ショートミーティングにて引継ぎをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族との会話をもとに重視すべき点を見極め取り組めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティア、生き生き支援センターの方を含め、地域の相談は民生委員。防災訓練時、緊急時には消防局、エスケープ時には警察にと機関の協力のもと暮らしを支えている地域資源を把握し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅総合管理をもとに往診、随時電話対応、受診対応している。他HPとの協力も得ながら支援している。歯科に関して口腔衛生、治療も随時対応している。本人、家族の希望に添いながら対応している。	全員が協力医を選び、協力医とは24時間対応の体制がある。協力医は緊急時の対応も可能であり、利用者・家族の安心に繋がっている。専門医の受診は基本家族対応であるが、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護週1回と随時看護師へ連絡・相談・報告を行い、状況によりすぐにつけける体制。指示があればスタッフ間で共有しケアに取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので提携機関もあり瞬時に対応できる。文書(看護サマリー)にて情報交換を行い入院後もHPと連絡を密にとり退院に向けての対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師が家族との面談を行うよう設定しその後の方針について情報を共有しスタッフで取り組んでいる。	医療的ケアがない限り、利用者・家族の意向を大切に、協力医・家族・ホームとで話し合い、方針を決めている。今年度3名の看取り事例がある。「いつでも来るよ」の医師の言葉があり、医師との信頼関係は構築され、家族・職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの作成、対応策ができています。勉強会を実施訓練もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い対策に備えている。常備食や飲料水の確保もしている。残り湯を溜め災害に備えている。	年に2回の内1回は消防署立ち合いで、防災訓練(日中・夜間想定)を行い、通報・初期消火・避難訓練をしている。消防署のアドバイスで、2階の避難経路整備や残り湯の溜め水を実施し、AEDの訓練もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活を把握し利用者に添った声かけをしている。目上の方に対し節度や敬意をはらうよう心がけている。	常に利用者を目上の人として意識した言葉かけを行い、居室への入室時には「入っていいですか？」と言葉をかけ、了解を得てから戸を開けるようにしている。利用者の個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や全身の反応をキャッチするとともに話しやすい環境をつくり、思いを話していただき自己決定の支援をしている。選択肢をだして決めていただくこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や業務に追われ希望に添った過ごし方ができているかは疑問だが、本人のペースにあった声かけに心がけている。時として職員のペースで動いてしまうことがある。外出希望など調整し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に声かけしながら対応している。洋服を選んでいただいたり、整容、整髪にも心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみ食、食事会など開催することで一緒に考え作ることができるよう支援している。食の細かい嗜好に添った代替食などで対処。2ヶ月に1回外食を予定している。	法人経営の配食業者の献立を、職員が調理・温めて提供している。果物のリンゴの皮を剥く利用者や、お盆を拭く、おしぼりを畳む等の役割がある。利用者が参加するおやつ作りは、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残し対応している。日々の身体状態に応じて量や形状、味付けなどをかえたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人ができる事への準備や促しをしたり、最終確認をしている。週1回訪問歯科による口腔ケアをうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録に残し対応している。トイレ誘導も2～3時間おき、定期的に促す事で習慣を活かしていけるように自立支援をおこなっている。	2時間おきの定時誘導や、一人ひとりに合わせた誘導をしている。失禁の多い利用者には、タイミングを見て声をかけて失禁を減らした事例がある。トイレ誘導を拒否する利用者には、興味のある言葉で誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ラジオ体操などで予防に努めている。また、整腸剤の薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添って対応している。およそ1日おき。入浴剤を使用している。	週3回の入浴支援を実施している。体を洗う時は足浴しながら行い、寛いでもらえるように肩に湯を掛けている。拘りの石鹸やシャンプー等にも対応し、季節感を楽しむ工夫も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調にあわせて休息時間をもうけ配慮している。居室で落ち着かなければリビングのソファで休んでいただくこともしている。巡回時にはエアコン管理もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、服薬忘れ防止策を取り、職員が一目見て把握できるようにしている。飲み終えるまでの見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの参加を促し楽しめるように提案している。日課として毎日うたとラジオ体操をしている。日常生活動作においては出来ることを見極め役割をもち支援している。(洗濯物たたみや調理手伝いなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の思いにそって支援している。外出先によっては車を使用したり、行楽、旅行などの季節行事にも取り組んでいる。家族の参加も受けいれている。	全員で出掛ける年2回のバス旅行では、莓狩りや日帰り旅行を楽しんでいる。外食や喫茶店、ドライブもある。天気の良い日には近隣の公園に散歩、お弁当を持って出掛けることもある。ホームの庭でバーベキューを楽しんで、気分転換を図っている。	家族アンケートで、外出支援が「わからない」との回答がある。ホーム便りに外出項目を設けたり、外出時の表情を伝える等の工夫をし、家族へ外出状況を、より分かりやすく伝えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には買い物に同行し楽しめるように支援している。自身で支払いができる方は見守り援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用は可。手紙のやりとり等は希望に応じ準備し支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や置物を配置。写真の展示。リビングには季節感を取り入れた工作物を作成展示している。トイレには芳香剤、リビングには花など設置。	玄関には職員写真や出勤者リスト、往診日程表等が掲示され、家族からの要望が叶えられている。対面式の台所は、匂いや音が感じられる家庭的な雰囲気があり、清潔感があるリビングになっている。食後、利用者が大きなソファで寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファなど配置替えをするなど考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物などをおき、心地よい空間づくりをしている。自己にまかせたり、家族と相談援助もしている。テレビも設置している。	ぬいぐるみ・書籍・自分の作品・テーブル・椅子・テレビ等、馴染みの物が持ち込まれた居室、余り飾らない居室等、一人ひとり個性溢れる居室は居心地よい雰囲気があり、清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの環境に配慮した設備(手すり、スロープなど)や表札など安全な生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア元八事(ユニットB)		
所在地	愛知県名古屋市天白区元八事3-292		
自己評価作成日	平成31年 1月26日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2371601234-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人なので、健康管理は万全で、理念である「心穏やかな暮らし」を目指し、感謝と思いやりの心を忘れず安心を提供しています。また、他部署と互いに協力し合い視野を広げて安心安全な生活ができる様、情報の共有をして身体機能維持向上に努め、利用者様の満足感につながるケアを心がけております。また、毎日が元気で笑いの絶えない施設を目指し、レクリエーション等にも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針は「昔と変わらず和みのある暮らし」をしていただけるよう提供している。理念も周知されるようにミーティングを通して確認し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。地域の行事に参加、施設行事への参加、近隣方々やボランティアに支援していただくなど交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを通じ近隣の方々に理解をいただき外出や散歩で挨拶を交わすなど触れ合うことで理解や支援方法を活かせるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。いきいき支援センターの方の参加協力を頂き運営状況、施設の取組等報告している。家族の意見も盛り込みサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所など尋ねた折には、相談助言をいただく機会をもつように心がけている。運営者が積極的に連絡をするなど往来する機会をつくっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、勉強会、マニュアルをもとに職員と意見をもちより、しないケアで取り組んでいる。ご家族とも相談の上、同意書を交わし施行。また3ヶ月ごと評価、検討をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに職員間意見交換や勉強会を開催。見過ごすことのないように声を掛け合い意識付をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の勉強会や民間の勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は施設長が統括的におこない施設パンフレット及び、重要事項説明書に添って内容を読みあげ、疑問点等に答えたりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見は随時施設長に報告、記録しミーティングを行ったり、運営推進会議を活用し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議を2ヶ月に1回開催し各施設報告をし共有の問題点や課題にとりくんでいる。月に1回ミーティングを行い個人的にも意見交換をし反映させている。常に意見を聞き反映できるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容など職場環境、条件の整備に関して配慮が希薄。時間外労働もあるが給与へ反映させている。また代表者は職員の状況を把握しようとして努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年2回の研修、定期的な技術研修の実施。施設内での新人教育に対する取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内ではあるが、それぞれの施設にて交流はしている。同業者との交流は施設長が主となりネットワークづくりに賛同している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望には耳をかたむけたり、本人の行動から探したりと安心した生活が保てるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常的に耳を傾けたり、こちらから問いかけたり話しやすい環境づくりに努めている。ケアプランの中に要望をとりいれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況にあわせ、必要に応じて職員間で話し合い支援の見直しや対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間と場所を共有することで、できる限り本人の意思を尊重しつつ援助をしている。一緒にできることへの喜びを共有し共に学びあひながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコンタクトをはかり会話をもって情報の共有をしともに考え解決したり伝達できるよう支援し本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる範囲での支援はしている。馴染みの場、人との関係継続は難しいが、思い出話、好きだった場所などを傾聴することを心掛け支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士孤立しないよう職員は配慮に努めている。レクや会話を一緒に楽しんでいただけよう各テーブルに職員を配置したりトラブル回避している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙のやりとりなど一部であるがつきあいの継続をしている。いつなんどきにおいても相談援助できるようにオープンにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き取り家族と相談しながら尊重するようにつとめているが、困難な場合は本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく馴染みの生活環境作りができるように、使い慣れた家具なども持ち込み対応している。アセスメントなどからも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な会話のなかで聞き取りや行動などから理解に努め、医療従事者から情報ももらっている。日常のケアでも職員間で情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを開催し現状に即した介護計画書を作成している。本人家族のニーズをもとに短期、長期目標をたて状況に応じ随時見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を利用しながら実施しているが情報が伝わりきれていないこともある為、毎朝、ショートミーティングにて引継ぎをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族との会話をもとに重視すべき点を見極め取り組めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティア、生き生き支援センターの方を含め、地域の相談は民生委員。防災訓練時、緊急時には消防局、エスケープ時には警察にと機関の協力のもと暮らしを支えている地域資源を把握し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅総合管理をもとに往診、随時電話対応、受診対応している。他HPとの協力も得ながら支援している。歯科に関しても口腔衛生、治療も随時対応している。本人、家族の希望に添いながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護週1回と随時看護師へ連絡・相談・報告を行い、状況によりすぐにつけける体制。指示があればスタッフ間で共有しケアに取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので提携機関もあり瞬時に対応できる。文書(看護サマリー)にて情報交換を行い入院後もHPと連絡を密にとり退院に向けての対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師が家族との面談を行うよう設定しその後の方針について情報を共有しスタッフで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの作成、対応策ができています。勉強会をし実施訓練もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い対策に備えている。常備食や飲料水の確保もしている。残り湯を溜め災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活を把握し利用者に添った声かけをしている。目上の方に対し節度や敬意をはらうよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や全身の反応をキャッチするとともに話しやすい環境をつくり、思いを話していただき自己決定の支援をしている。選択肢をだして決めていただくこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や業務に追われ希望に添った過ごし方ができているかは疑問だが、本人のペースにあった声かけに心がけている。時として職員のペースで動いてしまうことがある。外出希望など調整し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に声かけしながら対応している。洋服を選んでいただいたり、整容、整髪にも心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみ食、食事会など開催することで一緒に考え作ることができるように支援している。食の細かい嗜好に添った代替食などで対処。2ヶ月に1回外食を予定している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残し対応している。日々の身体状態に応じて量や形状、味付けなどをかえたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人ができる事への準備や促しをしたり、最終確認をしている。週1回訪問歯科による口腔ケアをうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録に残し対応している。トイレ誘導も2～3時間おき、定期的に促す事で習慣を活かしていけるように自立支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ラジオ体操などで予防に努めている。また、整腸剤の薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添って対応している。およそ1日おき。入浴剤を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調にあわせて休息時間をもうけ配慮している。居室で落ち着かなければリビングのソファで休んでいただくこともしている。巡回時にはエアコン管理もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、服薬忘れ防止策を取り、職員が一目見て把握できるようにしている。飲み終えるまでの見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの参加を促し楽しめるように提案している。日課として毎日うたとラジオ体操をしている。日常生活動作においては出来ることを見極め役割をもち支援している。(洗濯物たたみや調理手伝いなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いにそって支援している。外出先によっては車を使用したり、行楽、旅行などの季節行事にも取り組んでいる。家族の参加も受けいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には買い物に同行し楽しめるように支援している。自身で支払いができる方は見守り援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用は可。手紙のやりとり等は希望に応じ準備し支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や置物を配置。写真の展示。リビングには季節感を取り入れた工作物を作成展示している。トイレには芳香剤、リビングには花など設置。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファなど配置替えをするなど考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物などをおき、心地よい空間づくりをしている。自己にまかせたり、家族と相談援助もしている。テレビも設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの環境に配慮した設備(手すり、スロープなど)や表札など安全な生活が送れるよう工夫している。		